

新・東中とんぼ通信

発行 横浜市立若葉台東中学校 編集責任 鈴木 徹

イラスト こみね さおり



夏休み・いきものシリーズその2

第22号

トラップの結果

夏休み中に仕掛けたトラップについて結果報告をしておきます。今年は梅雨が遅くまで残ってしまい、台風の来襲もあり、トラップの設置も思い通りには行きませんでした。この結果が全てというわけではないと思います。機会があればまた設置してみようと思います。

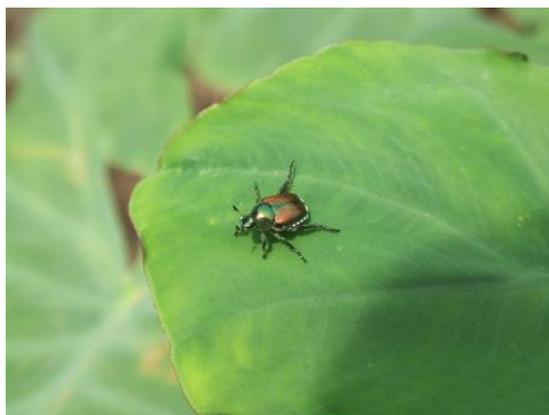
今回は、バナナトラップの結果についてです。8月中旬、東中の校地内6カ所に設置してみました。残念ながら、1回目は、カナブンが一頭おびき寄せられただけでした。



マメコガネ

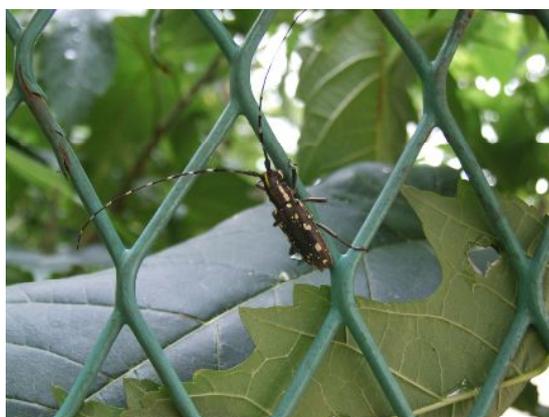
以前、外来生物のことについて、本通信上にてお話ししました。それは、日本国外から侵入して来た植物が、在来種（基から日本にある植物）に、様々な影響を与えているという内容でした。今回お話しするのは、その逆パターンです。

夏休み中に農園の様子を見に行ったときのことで、インゲン豆の葉上に、このコガネムシはいました。よく見ると、なかなか色彩豊かな姿をしていますが、このマメコガネ、アメリカ大陸へ渡り、現地では「ジャパニーズ・ビートル」とよばれ、農作物に大被害を及ぼしました。日本国内では、色々な天敵がいたために大繁殖は押さえられていたようですが、天敵の存在しなかったアメリカ大陸では、そう行かなかったようです。



キボシカミキリ

この昆虫は、校庭のヤマグワにいました。「懐かしいなあ」と思って、すぐに撮影しました。名前をキボシカミキリといいます。このカミキリムシは、クワ類の葉を食べるのですが、みなさんもお存じの通り、クワの葉は、カイコも食べます。養蚕（カイコを飼って、絹糸を取る）が盛んであった時代、キボシカミキリは、農家の方々が、カイコの飼料として栽培しているクワをだめにしてしまう厄介者でした。なぜなら、キボシカミキリはクワの木に産卵し、幼虫が材部を枯ら



してしまうからなのです。社会科で学習したとおり、JR横浜線沿線にも養蚕農家は多かったのも、東中近辺で桑畑の名残を見ることができます。さて、「懐かしいなあ」と思った理由ですが、それは、キボシカミキリが大学時代の研究対象だったからなのです。研究にはたくさんのキボシカミキリが必要であったため、真夏の暑い日、桑畑の中を一日中、全身汗だらけになりながら、はいずり回っていたことを思い出したからなのです。